

四谷の

千枚田だより



第 55 号

石積みを 直し棚田の 春待てり  
 豊明市 河合満  
 石積み の インカ遺跡の 段々畠  
 真似しや祖の 拓きし棚田  
 四谷 小山志ず子



第十四回全国棚田「千枚田」サミット  
ト事業計画

山肌棚田のように重なり、その曲線美を見せる四季折々の棚田景観の美しさは、日本の原風景として日本人の心に潤いと安らぎを与えてきました。しかし、その棚田は、経済効率重視や担い手の減少などにより、荒廃化が進み、今や存亡の危機に直面しています。

こうした背景の中で、多くの賛同者が集い、棚田を守り後世に残して

いこうとする動きが着実に大きな輪となって広がろうとしています。そこで、全国の棚田(千枚田)を有する市町村、棚田保全に取り組む団体・個人が一堂に会し、環境保全や生産の場としての水田、文化遺産としての棚田保全の意義や必要性を互いに理解しあい、都市住民など多くの国民の理解と合意を得て、本格的な中山間地域の維持活性化につなげようと第十四回全国棚田(千枚田)サミットを開催するものです。

2008年  
 10月16日(木) - 18日(土) 3日間  
 第14回 全国棚田(千枚田)サミット  
 長崎県 長崎市・雲仙市 共同開催

開催日程

- 第1日目 10月16日(木)
  - 10:00 ~ 10:50 全国棚田(千枚田)連絡協議会理事会
  - 11:00 ~ 12:00 全国棚田(千枚田)連絡協議会総会
  - 13:00 ~ 15:00 基調講演
  - 16:00 ~ 18:00 大中尾棚田見学会(長崎市)
- 第2日目 10月17日(金)
  - 10:00 ~ 12:00 千々石の棚田見学会(雲仙市)
  - 14:00 ~ 17:00 分科会(5分科会)・首長会議
  - 18:00 ~ 20:30 全体交流会
- 第3日目 10月18日(土)
  - 9:30 ~ 10:40 分科会発表
  - 10:50 ~ 11:20 共同宣言
  - 午後 ~ 次期開催地挨拶・閉会式  
市内視察(エキスカッション)

市側から提出された  
 新年度予算概要

二月二十四日発行の「週刊鳳来民報」  
 新年度予算特集号によると  
 「一般会計歳出の部」  
 1 自然環境の保全と共生のま  
 ちづくり

(1) 地域資源の把握  
 本市の貴重な地域資源の一つである千枚田の保存については、農地環境保全の一環として地域保存会とともにやっていく。

(2) 自然環境の保全・共生・活用  
 全国棚田連絡協議会主催の棚田サミットへの参加は、山村の原風景である「棚田」を持つ他の地域との交流を図る目的から、地元保存会を主体として継続していく。(原文)

・・・と掲載されました。  
 棚田の百姓や地域住民はこの予算案を見て、市議会議員の先生方、市長さん、市行政の皆さんが文化的遺産「四谷の千枚田」を地域資源、自然環境の保全等に深く考えていて頂いていることを再確認するとともに、千枚田の保全に、より一層、力を注いでいきたいと思えます。



## 「高齢化する村を支援するプロジェクト2007」のご報告

十月十日、製薬会社アストラゼネカ社員三千人は北海道から沖縄まで、全国の棚田等五十ヶ所を支援活動を行いました。(たより五十号掲載)

このたび、全国での活動の様子をご覧下さいと社内報「G&S」特別号が届きました。

回覧しますから、全国の棚田風景や活動状況をお楽しみ下さい。

## 横浜ゴム新入社員研修

横浜ゴム新城工場、新規採用社員三十八名の研修が昨年に続き今年も四月四日(金)、四谷の千枚田で行われます。当日は棚田の保全活動や概要などを小山舜二(県ふるさと指導員)の案内で景観道を散策、「ふれあい広場」周辺の景観整備等の研修を計画しております。

当日は、景観整備活動を通し、全国から新城市の企業へ就職した若者達と地域の皆さんの楽しい交流を図りたいと思います。

当日(十一時～十五時)、参加できる方は(舜)まで連絡をお願いします。

## 研修会参加報告

ふるさと水と土ふれあい事業全国研修会「既報」に設楽町名倉地区営農推進協議会から参加し、新たに「県ふるさと指導員」に任命された二名の研修報告会が二十四日に四谷の千枚田で行われます。

当日は、推進協議会の会員十名とともに千枚田へ訪れ、同指導員の小山舜二が「四谷の千枚田を核にした村づくり事例」を現地を通して説明します。

## インホメーション

### 恵那坂折棚田ピオトープ

### 全国審査で銀賞

愛知万博「昔の脱穀」や「サミット」でお世話になり、お馴染みの岐阜県国際園芸アカデミーの相田明准教授は、上級マイスター科の学生と実践している「恵那坂折棚田ピオトープ・プロジェクト」が「全国学校ピオトープ・コンクール2007」(日本生態系協会主催)で銀賞を受賞しました。

九月九日、棚田学会・棚田ネットワーク会長の中島先生、木戸さん、相田先生達と一緒に「四谷の千枚田」を訪れ、駆けつけた保存会の連中と棚田米の「おにぎり」を囲み、四個も五個(女子学生)も食べ、あぐらにおみやげに持って帰った元気な学生達が銀賞を受賞したわけです。受賞おめでとございました。

## 四谷千枚田版画に

新城市連谷小学校の児童たちが、近くの四谷千枚田(棚田)を題材に木版画を作った。同小は棚田で年間を通じて稲作に取り組んでいる。木版画がライフワークの林亨・菅守小学校長(五五)が四年前から講師を

努め。一月から四回にわたり連谷小を訪問。最終日には全校児童十人のうち三年生以上の八人は紙版画を



小山琢磨君「一番大変だった草取り」



大橋萌生「友達といっしょにかかし立て」

押しつけて絵が完成すると、児童らは出来栄を互いに見比べながら笑顔を見せた。(阿部雅之)

「中日新聞」二月十八日

二月九日発行、「週刊鳳来民報」によると、十七日の新年度予算特別委員会へ向けて事前通告した中身」と題して、農業振興費、地域力が活かされた四谷の千枚田は、周辺下流域まで環境保全対策に貢献、サミット前から今日まで四年以上にわたり「四谷の千枚田だより」を発行、情報を全国に発信し続けている。このような「先進的営農活動地」として市内の地域力ネットワークへと結びつけるための新年度対策は、と、述べている。

## げなげな斬

ほい、千枚田のピオトープでヤマアカガエルが卵を産んだのお知つとるかん・ふん、平成十五年から大林の合戸から毎年、卵を持ってきて入れとつたが、今年の二月二十七日に初めて卵を産んでくれたのん・ヤマアカガエルはやあ、二月の始めの雨の日に卵を産むつちゅうげなが、ふんどだったのん。：アカガエルは焼いて食うとたまらん美味いだで、増えるといいがのん

行 平成二十年三月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
文責 小山舜二